

2. 河川工事の実施に関する事項

2. 1 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要

1, 目標流量

沙流川の目標流量配分は図 2-1-1 のとおりであり、平取基準地点では目標流量 $4,300\text{m}^3/\text{s}$ とする。河道への配分流量は、洪水調節施設により $1,100\text{m}^3/\text{s}$ を調節し $3,200\text{m}^3/\text{s}$ とする。

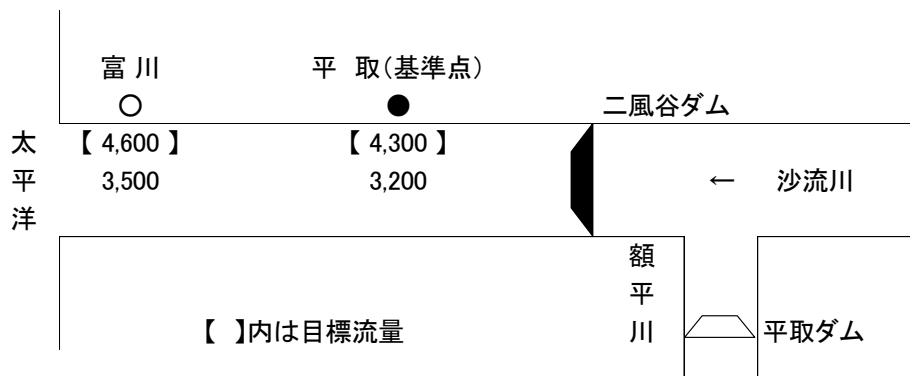


図 2-1-1 洪水調節計画流量配分図 [単位： m^3/s]

2, 河道計画

表 2-1-1 主要地点における計画高水位及びおおむねの川幅

河川名	地点名	河口又は合流点からの距離 (km)	計画高水位 T.P(m)	川幅 (m)
沙流川	平取	16.0	27.98	350
	富川	3.0	7.26	400

(注) T.P：東京湾中等潮位

3, 河川工事の内容

1) 洪水時の水位低下対策

■ 二風谷ダムと平取ダムによる治水と利水

目的	二風谷ダム（平成9年度完成）と平取ダムの相互運用により平取基準点における目標流量4,300m ³ /sを3,200m ³ /sまで調節し、下流地域の洪水被害軽減を図るとともに、流水の正常な機能の維持を図る。さらに利水の補給・発電を行う。
整備内容	平取ダムを建設し、平取地点において二風谷ダムと相まって1,100m ³ /sの洪水調節を行う。地域産業を支え、発展させる上で必要となる農業用水や都市用水の安定供給を可能にするための貯水容量を確保する。なお、二風谷ダムと平取ダムの容量については、本川下流二風谷ダムの洪水調節効果を最大限に活用し、2ダムでより有効な洪水調節を行う治水・利水容量配分とする。
環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・二風谷ダムと平取ダムについては、北海道条例に基づき昭和57年に環境影響評価を行っており、水質、地形、地質、植物、動物、景観について影響は少なく問題はないと評価された。 ・平成8年度より実施した二風谷ダムモニタリング調査結果による知見を平取ダムに生かすとともに、動植物の保全については有識者の意見等を踏まえ、生息場の確保、植物の移植、対策工など必要な措置を行う。 ・額平川と宿主別川合流点付近の段丘上にある日本の野生のスズラン群生地は保全する。 ・湖岸周辺に生じる裸地には、耐水性のある柳等を植樹し、緑化を図る。 ・施工中完了後を通じて環境影響評価のフォローアップを行う。 ・堤体や湛水域における埋蔵文化財の保護については北海道教育委員会に協議し、所在した場合の取扱いについては、事業計画の変更も考慮に入れて、文化財保護法の主旨を尊重する。
整備効果	平取ダム下流の額平川及び二風谷ダム下流の沙流川の洪水被害の軽減、流水の正常な機能を維持するための流量の確保により生物の生息空間の確保、都市用水及び流域基幹産業である農業の将来発展に必要な水の安定した取水が可能となる。 また、創出されるダム湖面及び周辺空間は、地域における貴重な水辺空間として活用することができる。
実施場所	二風谷地区、芽生地区、豊糠地区

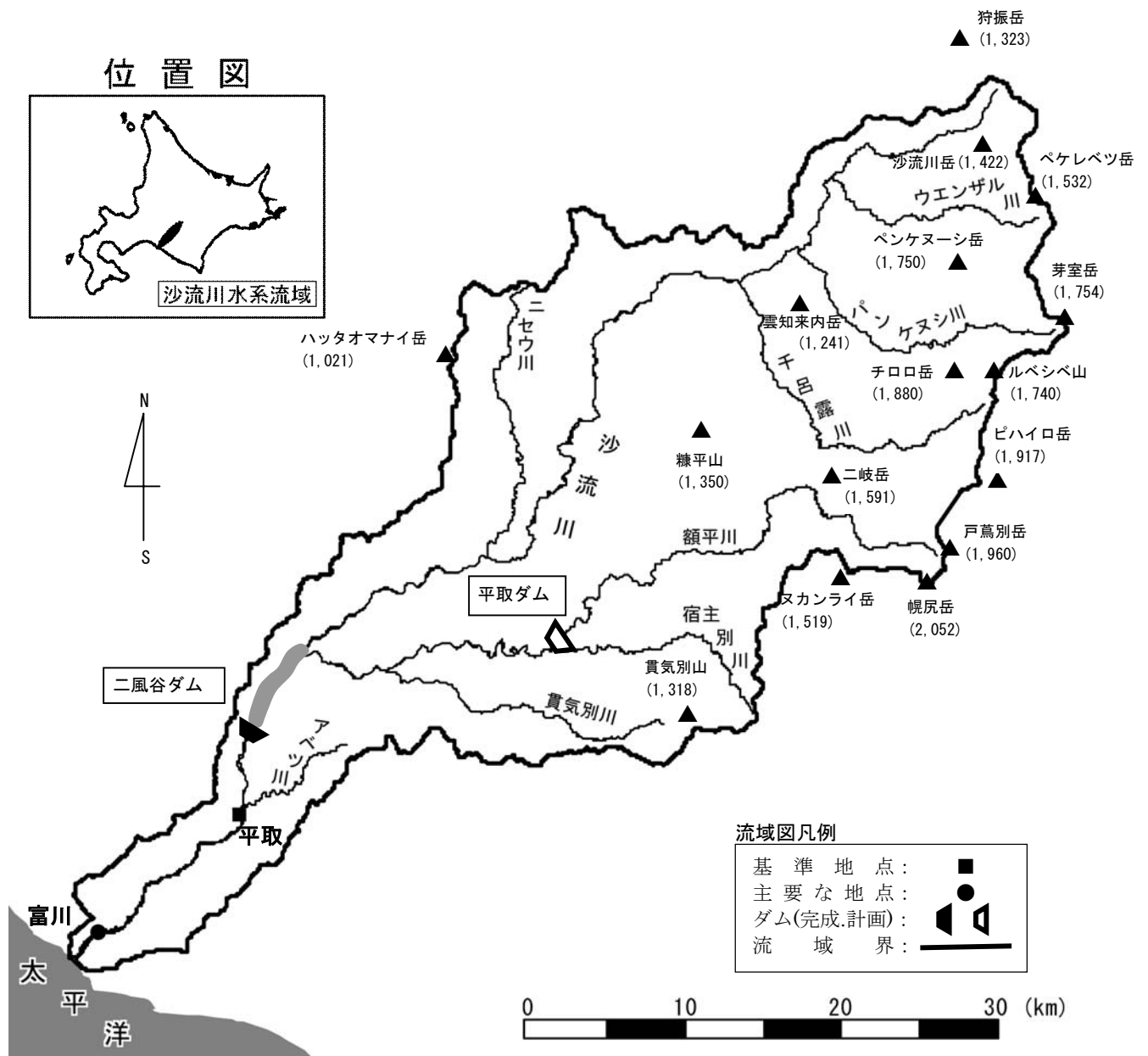


図 2-1-2 二風谷ダム及び平取ダム位置図

(参考)



図 2-1-3 平取ダムイメージ図

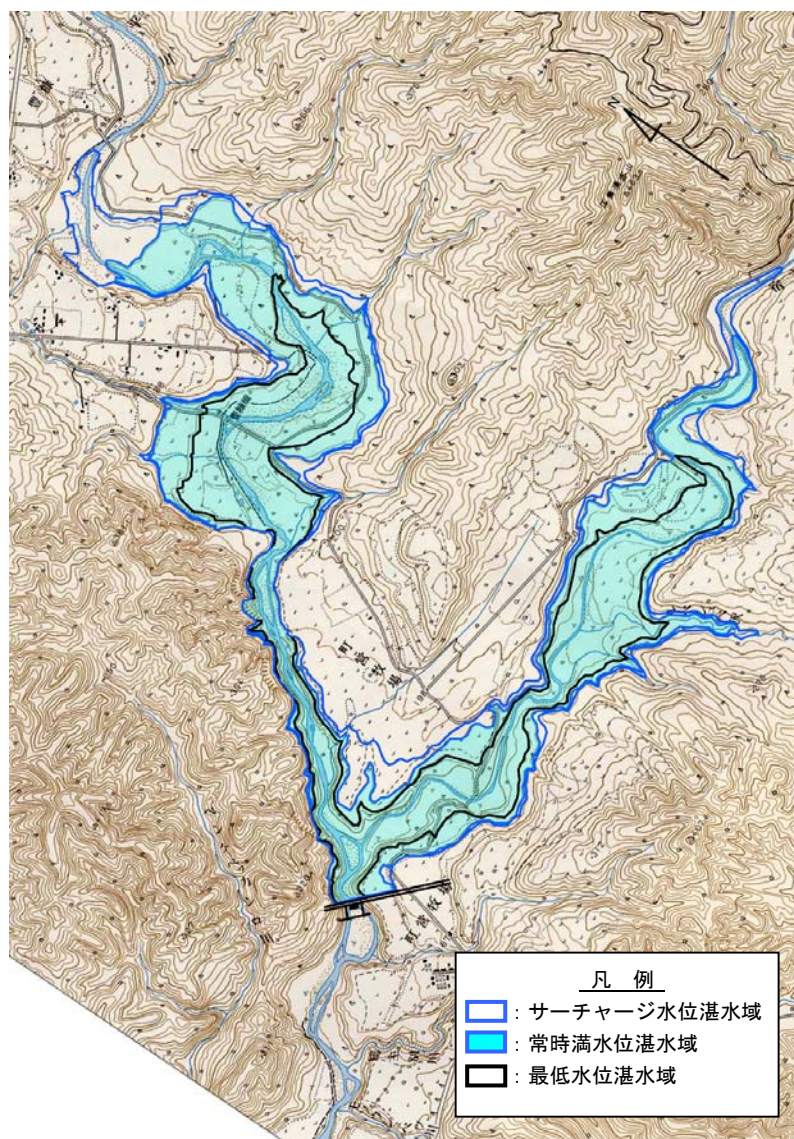


図 2-1-4 平取ダム貯水池平面図

(参考)

表 2-1-2 沙流川総合開発事業

項目	内容	項目	二風谷ダム	平取ダム
関係町 目的	平取町	集水面積	1,215 Km ²	234 Km ²
	・洪水調節	湛水面積	4.3 Km ²	3.1 Km ²
	・流水の正常な機能の維持	堤高	32.0 m	56.5 m
	・利水の補給と供給	堤頂長	550.0 m	600.0 m
	・発電	総貯水容量	31,500,000m ³	45,800,000m ³

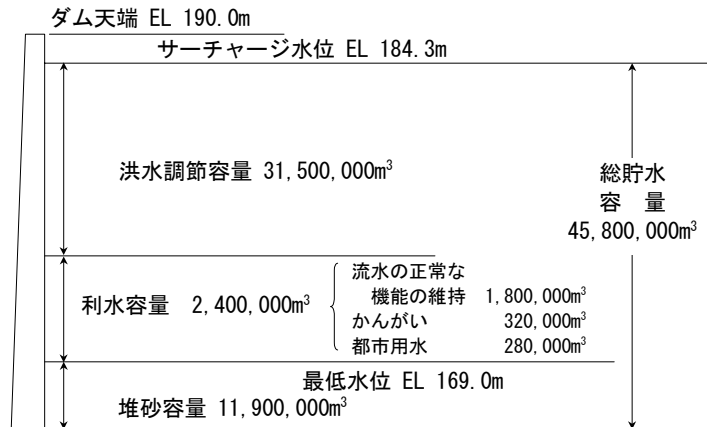


図 2-1-5 平取ダム貯水池容量配分図

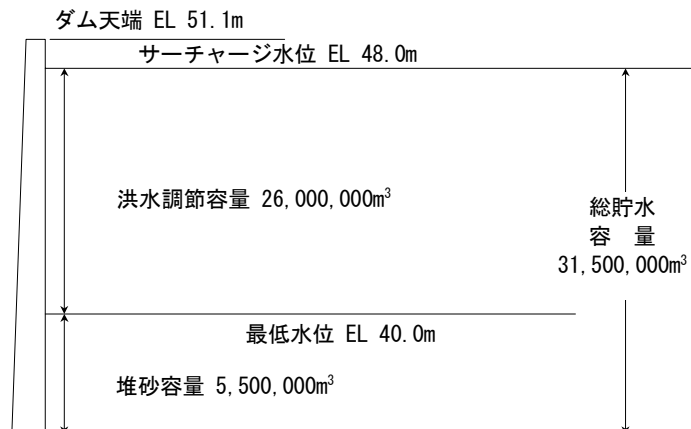


図 2-1-6 二風谷ダム貯水池容量配分図

※図 2-1-5 及び図 2-1-6 は、旧測量法（昭和 24 年 9 月 1 日施行）に基づくものです。



写真 2-1-1 二風谷ダム

■ 河道掘削による流下能力の向上

目的	洪水時の水位低下を図る。
整備内容	川の大きさ（流下能力）の不足している箇所を河道断面を確保するために河道を掘削する。
環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ シシヤモ産卵床区間においては平水位+1m 以上の高さで掘削し、河床を掘削しないことを基本とする。 ・ アオサギ等の鳥類や小動物が多く確認されているような箇所の樹木を伐採しないような掘削形状とする。 ・ 水際の樹木を再生し、樹木が水面を被覆することによる水温調節や水質の維持、倒木・枝葉の流路内落下による魚類・底生動物等の生息場所・餌環境の提供、哺乳類の移動経路や昆虫の生息場所等陸上における各種動物の生息場所の提供等を行う。
整備効果	対象となる洪水を計画高水位以下で流すことができる。
実施場所	河口左岸地区（左岸 KP2.4～3.0 付近）、荷葉去場地区（右岸 KP13.4～14.0 付近）、二風谷地区（KP19.2～20.6 付近）
<p style="text-align: center;">※流下能力不足により対策が必要な断面</p>	
<p>図 2-1-7 流下能力不足により対策が必要な断面横断図 (S = 1:5,000)</p>	

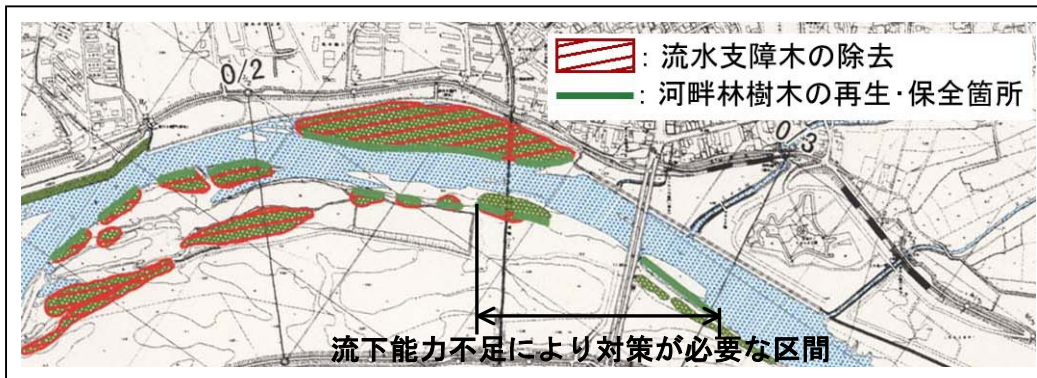


図 2-1-8 河口左岸地区 流下能力不足により対策が必要な区間

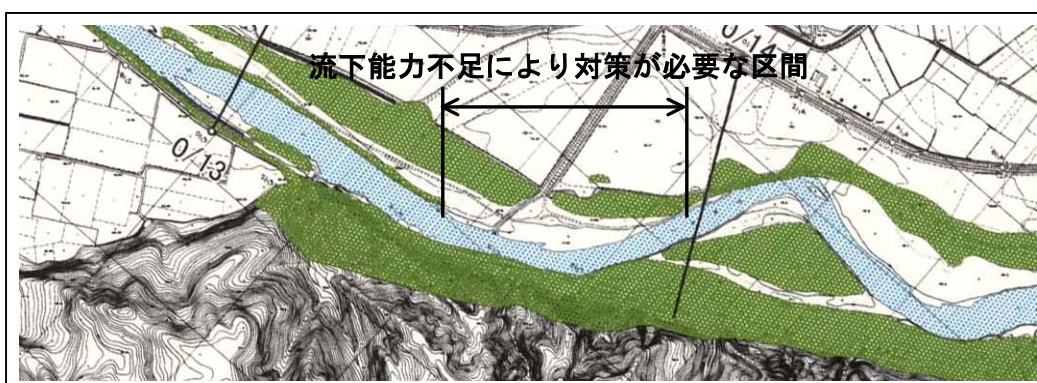


図 2-1-9 荷菜去場地区 流下能力不足により対策が必要な区間

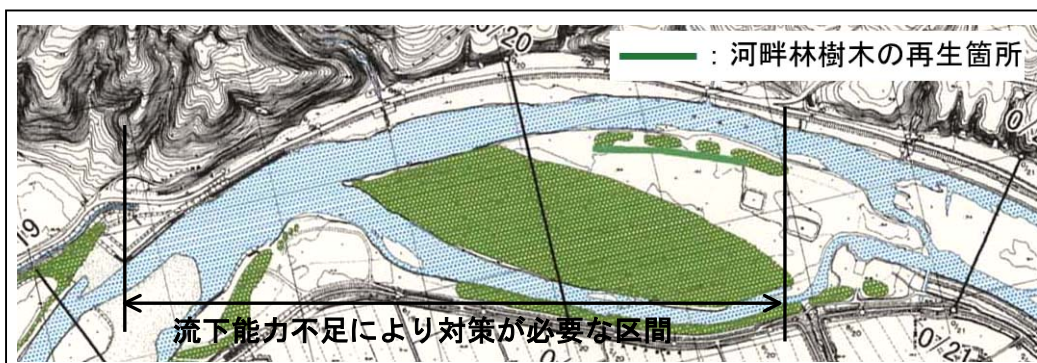


図 2-1-10 二風谷地区 流下能力不足により対策が必要な区間

※実施に当たっては、全川にわたり河道の経年変化の状況や周辺的环境に配慮し、施工箇所や方法等を総合的に検討する。